

生命の衰弱

上市厚生病院 越山健二

近年人間の生命や健康の衰弱が指摘される。それは特に先進国といわれる国々において高まっているのではないかと指摘である。物質文明が進み、生活水準が向上する中でこの事は一見逆の現象とも思われるが、率直にみとめざるを得ないような気がする。

日本では寿命が延長し、世界の最高長寿国となる日も近いと思われるが、生命や健康が増進していると思われない諸々の現象がある。健康は身体的、精神的、且つ社会的な三つの要素のバランスの上で評価されるが、その何れをとってみても反省させられる点が多い。

身体的には世界最高水準の高令化社会と言われる中で、老人の健康は疾病が多く、列国に比して老化が早く活力ある老後が期待されない。循環器疾患や悪性新生物、その他慢性疾患の多発は統計資料によっても明らかである。又成人男女や青少年の身体的な欠陥についても多くの指摘がある。増高する肥満、糖尿病、高血圧、青少年の耐久力・持久力の減退、機敏な適応動作の不足は不慮の事故や災害の多発となっている。又妊娠、出産、分娩等の諸機能の低下を指摘する人もある。

精神面の衰弱は特に著明のようである。それは先進国といわれる国ほど高いといわれ、日本もその例外ではないようだ。青少年の無気力、無責任、無感動、無連帯が指摘されてから可成りの月日が流れたが、近年家庭、学校、地域で多発する不祥事件は特殊のものではないように思われる。

人間は本来、地域の中でお互い信頼し協力し、連帯感の中で生きてきた。そんな中で愛情や誠実で勤勉、感謝や報恩を学び、質素で

節約し忍耐の精神を育て、美しい人間性を生きるための秩序としてはぐくんできた。それが急速な文物文明のすすむ中で摩耗し衰弱したのである。地域の連帯は薄れ、物量、巨大化の傾向は競争意識を高め、排他的、独善的で孤立化の傾向を高めた。物量の価値は感謝や報恩の思いを遠ざけ、多量生産や消費は美德の風潮におされて質素で節約の美風をまひさせたようだ。核家族、中流意識は崇拜や宗教の念をも消失した様に思う。このような精神の衰弱はこれからの人間や、人類そのものの生存にとって大きな障害となるであろう。食物摂取は粗放化され、伝統的な食の文化は影をひそめ、肥満や貧血の多発は本研究会でも報告された。

更に社会的な面になると、水、土、空気などをはじめとする自然環境は変化し多くの健康疎外要因を産みだした。家庭、職場、近隣など社会環境の変貌も著しく、生命の安全性や保健養護を期待する事は困難な状況にある。本来保健に対しては自立、自助による自守管理が大切である。福祉の向上、権利意識の高まりは、甘えと依存の傾向を産み自立・自助の精神の損耗をもたらした。

このように生命や健康を身体的、精神的、社会的な三つの側面から概観してみたが、今日はまさに生命や健康に対し衰弱が次第に加速されている事は否定出来ないようである。

私共は今日、平和で衣、食、住ともに満ち足りた生活をしており、中流意識が90%以上を占める事は単的にそれを示すものと思われる。そんな中で知らず知らずのうちに生命そのものの衰弱をきたしている事に気づかずにい

る事も事実のようである。

日本は資源、エネルギー、食糧等どれも自国で充足出来ないといわれる。これらは人間の生存にとって欠く事の出来ないものである。地球的な視野で日本民族や世界人類の生存が平和や自由を基本として考えられねばならない。

技術の進歩は、バイオテクニクス（生命工学）を産み、バイオエシックス（生命倫理）の論義も華やかであるが、これによって生命

の衰弱を救う事は不可能である。もはや保健問題は大きな人類の生存秩序にかかわっており、政治や経済だけの問題ではなく、個々の人間が直接肌で感じ問題として意識の中に止めなければならない。それは先に述べた身体的、精神的、且つ社会的な要因の中から原点にたち反省してみる必要があり、家庭や職場、近隣の中で、ぬくもりのある人間性の回復をはかり、協同連帯の生存秩序の確立をめざさなければならないと思う。